

## 日本大学高等学校・中学校 自己評価票

本校の 目指す 学校像	日本大学の建学の精神に基づき、校訓「情熱と真心」を掲げ、「自覚と責任」を教育目標とする。常に情熱を燃やし、人とのふれあいに「真心」を示すことを理想とし、これに応え得る「自覚」を持たせ、勉学に励み、体力を養い、徳性を磨く「責任」を課し、中道を歩むという方針を基本として生徒指導を進める。
-------------------	--

本校の 特長及 び課題	中高一貫校という特長を活かし、進学を主たる目的とする学習にとどめず、本質的な学力とすべての物事に真摯に取り組む姿勢とを培う教育を目指し、併せて本意進学のための早期動機付けなどの進路指導を徹底し、将来、日本大学の中核をなす生徒を育成することを課題とする。
-------------------	--

### 平成22年度の取組結果

〔概況〕			
<p>高校・中学とも大幅な入試制度の改革と高校での特別進学クラスの新設という大きなテーマに、全教職員が一丸となって取り組んだ結果、受験者数の大幅な増加という成果を得た。しかし、取り組み目標によって進捗状況にはかなり差異があり、多くの項目で高い達成度を示している一方で、達成度の低い項目も少なくない。これらについては、引き続き年度内の達成に向け全力で取り組む。</p>			
評価項目	取組目標	取組結果・進捗状況	※達成状況
教育活動	年間行事の検討	早期に教務部案を提出する事ができたので、各部署で熟慮する余裕があり、完成度の高い年間行事予定が完成した。	A
	新指導要領でのカリキュラムの策定	特別進学クラスの新設に伴い、全く新たなカリキュラムの検討を行ったため、今後も検討する余地が残った。	B
	活力と学習意欲に満ちた学級・学校作り	特別進学クラス、入試制度の改革により、その端緒を開いたが、目標の実現は今後の継続的な取り組みにかかっている。	B
学校生活への配慮	基本的な生活習慣の確立(服装・頭髪・遅刻)	女子生徒のスカート丈の徹底を除いては、おおむね良好である。ただし、遅刻の常習生徒が目立つ。	B
	教員間の意識統一(学年・担任中心の生徒指導)	教職員会議を通じて、教員間・学年間の指導の温度差をなくすよう努めたが、いまだ課題も多い。今後も年間を通じて根気強く取り組んでいく。	C
	事前指導の徹底	講演会の実施、プリントの配布等、指導方法を工夫したため良好である。今後も努力していく。	B
課外活動	学校生活の充実・改善・向上	生徒会ホームページは、生徒会指導部内に担当の教員を置いたため、昨年度に比べタイムリーな情報が流せた点で有効に活用できた。	B
		生徒会誌の発行日を高校卒業式に合わせたため、より充実した内容になった。	A
		部室棟は、管理体制を見直した。昨年同様、各部の部室を移動することによって美化意識をさらに向上させたい。	B
進路指導	「本意進学」のための早期動機付け	「日本大学進路相談会」を7月に開催し、各学部の情報を高校・中学の生徒・保護者に提供した。「卒業生による入試説明会」を高校1、2年生は全大会形式、3年生は分科会形式で開催し、受験対策や大学生活の様子等の情報を提供した。また、進路ノートを導入し、体系的に担任が進路指導を行う上での一助となった。	A

進路指導	学年との連携の強化	高校1・2年生を対象に、夏休み期間中オープンキャンパスへの参加を課し、高校1年秋の校外活動では、学部見学を一部実施した。 高校3年生に進路の冊子を提供し、担任・生徒・保護者が付属推薦や指定校推薦の情報を共有できるようにした。	B
保健衛生	自己管理の啓発	校外活動・スキー教室等の参加生徒全員が健康診断を受診した。 手洗い・うがいの啓蒙、消毒液の設置等でインフルエンザ等での大きな集団感染を防ぐことができた。	A
	保健や健康に関する情報の提供	食育を中心とした「保健だより」を定期的に発行したことにより、食事・生活習慣・流行性疾患・時期に応じた情報を提供することができた。	A
図書	学習支援・読書支援を図書館活動の基本として日々の支援活動の刷新	教職員による図書の選定「見本巡回」を実施した。	B
		『図書館利用ガイド・読書ノート・100冊の本』を作成し、4月に、広報誌『ライブラリー』、文集『桜苑』を3月に発行した。生徒図書委員による『読書強調旬間冊子』、『図書館通信』『新着案内』は第10号まで発行した。	A
		中学生対象の読書感想文コンクール（結果は『桜苑』第4号に発表）を実施した。	A
		生徒図書委員による『授業に関する本』、『特集』コーナー設置、『列の1冊』紹介などを随時実施できた。	A
広報	学校説明会での集客と内容の充実	神奈川県私学入試相談会でのアンケートにおいて、教員の対応が一番良かった学校に選ばれたことは、学校をあげて広報活動に取り組んだ成果であると言える。	A
	塾訪問の実施	神奈川県内の大手学習塾を頻繁に訪問、入試制度を周知徹底できた。受験生数の飛躍的な増加をみても成功したと言える。	A
	ホームページの充実	どのページを受験生が閲覧しているかを確認するには、外部サーバーの導入が不可欠であり、その点、課題が残った。	B
管理運営	シラバスの早期作成と配付	前年度末までに編集、入稿を済ませた結果、新年度当初に配付することができた。	A
	高大連携教育の拡大	従来の法学部・経済学部に加え、今年度は文理学部との間でも高大連携教育を実施でき、単位修得者を複数出せた。	A
	生徒募集活動の充実	大幅な入試改革に合わせて、広域型・ポイント型の広告を同時に展開することにより、新たな受験層が飛躍的に開拓できた。	A
	創設80周年記念事業の実施	記念式典が挙げて、同窓生との絆が強められた。記念誌の発行により生徒に本校の伝統と歴史を認識させることができた。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

#### 中長期的目標の取組結果

評価項目	具体的取組目標	取組結果・進捗状況	※達成状況
教育活動	進路指導の充実	進路説明会で自己分析とライフプランの作成を促すと同時に進路ノートを導入することで、体系的な進路指導が可能となった。	A
	中高大院連携教育の推進	中学からの理工学部による「ロボット講座」受講者が高校では物理部に所属、その後理工学部に進学という連携が実現できた。	A

管理運営	教員対象の啓発活動の充実	特別進学クラス設置のため、校内でカリキュラムと大学進学についての講演会を複数回催すことを通じて、意識改革が図れた。	A
	生徒の習熟度に合わせた支援の充実	習熟度別、少人数教育、補習、講習、外部学習機関との連携等、さまざまな進路に対応可能な個に応じた体制ができつつある。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

### 平成23年度の取組目標及び方策

評価項目	具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
教育活動	新指導要領に基づく教育課程の作成	特別進学クラスの教育課程創出を基底に充実した教育課程を計画する。	1学期に案を提出・検討、2学期に調整して、3学期の完成を目指す。
	教育課程の成績評価案の作成	現行の成績評価の問題点を検討し、教育課程も含めた成績評価案を作成する。	総合進学クラス、特別進学クラスの改善点を集約し評価案を策定する。
	他分掌との連携	事務事項の重複処理、行き違いの廃絶を他の分掌、教科と連絡を密にして図る。	早期に各分掌との連携を図り、検証を重ねつつ、改善の方向性を固める。
学校生活への配慮	基本的な生活習慣の確立(服装・頭髪・遅刻)	全教職員で生徒への根気強い指導を図る。係りと学年・担任が連携し、保護者にも指導の協力を求める。	登下校時、ホームルーム・終礼、授業開始時に指導の徹底を図る。定期的に全校・学年集会での指導を実施する。
	学年・担任中心の生徒指導	教職員の意識を改革する。生徒に関する情報を共有する。	年間を通じて呼びかけ、根気強く取り組む。
	非常勤講師の生徒指導の徹底	学校規則・内規等の説明会を実施する。具体的な指導の仕方を要請する。	年度当初に生活指導に関する説明会を実施し、要請を継続的に行う。
課外活動	学校生活の充実・改善・向上	大幅増となっている補正予算を改善し、生徒会予算のスリム化を図る。 地域社会と連携して、ボランティア活動の充実を図る。	前年度と比較し削れるところは削っていき、適正な予算を策定していく。 周辺地域のボランティア団体と打ち合わせ、できる範囲から実施する。
	生徒の諸活動に対する最大限の支援	学園祭の準備での生徒会役員の下校時刻を一般生徒同様の午後7時に極力近づける	生徒会の一般生徒への下校指導を短縮、午後7時半の完全下校を目指す。
進路指導	他大学も含めた「本意進学」への取り組み	「日本大学進路相談会」を継続実施するとともに、他大学進学に向けた校外での模擬試験の受験を呼びかけ、継続して校内での模試申込手続きを行う。	年度当初に校外模擬試験の年間スケジュールを配布し、7月と11月に実施する予定。高校3年生のみは6月に実施する予定。
	学年との連携の強化と情報の共有化	高校1・2年生を対象にした「オープンキャンパスへの参加」は夏休みの課題として継続。 高校1年生秋の校外活動は、学部見学及び職業観の育成を要請する。 高校3年生に進路の冊子を提供し、担任・生徒・保護者が付属推薦や指定校推薦の情報を共有できるようにする。	日大の各学部と主な大学のオープンキャンパスの日程を配布する予定。夏休み明けのレポート提出を課す。 学年との打合せを、年度当初に行う。 付属推薦や指定校推薦の基準の出揃う日程の関係から、9月を予定。
	進路指導室の利用と活用	継続して、閲覧用資料・書籍・データの整理整頓に努め、教員や生徒の質問に迅速に対応できるようにする。	掲示板、棚等を整備し、年度当初より実施する。

保健衛生	保健システムの管理・運用	健康診断結果の入力及び、勧告書の発行・回収する。	今年度の「保健計画」に則って実施する。
	保健や健康に関わる情報の提供	健康診断・諸検査予定を周知徹底する。時期に応じた保健情報を提供する。	学期や時期に応じて、保健衛生部より、食育情報を含め「保健便り」として配信する。
	保健室利用生徒人数月集計報告	月毎に利用状況を報告。 保健室入室は「必要時のみ」を徹底 (用のある生徒のみ保健室利用を許可する)	4月中(早期)に保健委員を選出決定し、授業中の体調不良者の引率などを徹底する。
図書	学習支援・読書支援を図書館活動の基本として日々の支援活動の刷新	教科(技術・情報)との連携を図る。行事を活用する。(中学2年生 農村体験での自己紹介と報告書作り・中学3年生 修学旅行での後輩への新聞作り)	4月当初から計画的に実施していく。行事ごとに事前研究として実施していく。
	図書館における広報活動の充実と強化	生徒図書委員による『授業に関する本』『特集』コーナー設置、『列の1冊』紹介	図書委員会活動時間内に随時行っていく。
		生徒図書委員による『中学1年生への推薦図書冊子』と『読書強調旬間冊子』発行	4月当初に発行する。 10月に発行する。
		広報誌『ライブラリー』・文集『桜苑』『図書館通信』・『新着案内』の発行	3月に発行する。 年10回発行する。
活用しやすい環境とシステム作り	コンピューター・蔵書検索等システムの利用指導を行う。	4月当初に実施する。	
広報	カリキュラム変更の告知徹底	2つのクラス(特別進学・総合進学)を導入したことを告知する。	4月当初より実施する。
	受験システム変更の告知の徹底	入試制度変更に伴い、受験生の不安を払拭するため雑誌やインターネットなどを利用して告知する。	4月当初より実施する。
	学校案内の充実	学校案内を全面改訂するため、A3版簡易案内も含めて以前より良いものを制作する。	前年度から計画的に進め、年度当初の簡易版案内配布を目指す。
管理運営	新入試制度の検証と改善	新たな入試制度をあらゆる角度から検証し、来年度に向け改善を図る。	前年度から関係部署ごとに検証を進め、早期の改善を目指す。
	特別進学クラスの支援	カリキュラム上の授業時間数のみならず、放課後のサポートタイムなど、学習環境を整備する。	特別進学クラス検討委員会の作成したタイムスケジュールにより進める。

#### 中長期的目標及び方策

評価項目	具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
教育活動	特別進学クラスの設置による学力の向上	入試基準の維持により優秀な成績と学習意欲の旺盛な受験生を獲得することで、学習面をリードする層を作り学年全体、延いては学校全体の学力の向上を図る。	3年後の大学進学実績を目指し、進路シラバスに従って、計画的に指導を行う。

	教員対象の啓発活動の実施	各教科の研究授業・授業参観を日常的に実施する。また、新規採用教員には、3年間をかけて各分掌を経験させ、本校の指針を理解させるとともに意識の向上や自主性を養い、自覚を促す。	初年度は生徒指導のスタンスを身をもって認識できるよう、生活指導部と本校についての理解と本校教員としての自覚を促すために、広報部を経験させる。
	高大連携教育の拡大	従来の法学部・経済学部・文理学部に加え、理工学部との間にも高大連携教育を展開する。	年度当初から本校と理工学部との間で連携教育の具体的な方向性を話し合う。
管理運営	入学生徒のデータベース管理	平成23年度受験生に対して実施した入試得点のデータベース管理をさらに発展させ、学校説明会や入試相談会、塾説明会、中学校訪問等もデータベース化することで入試をマーケティングし、効率的な募集活動に反映する。	年度当初から前年度の各種データを入力しつつ、逐次新たなデータを加えていくことでその精度を向上させ、募集重点地域の選定、入試区分による募集定員、入学試験での歩留まり計算に役立てていく。
	日本大学高等学校・中学校奨学基金組入れ額の変更	学業成績並びにスポーツ振興のさらなる向上、及び生徒の経済的援助を行う事業の充実に努めるため奨学基金の組入れを図る。	平成22年度、平成23年度に組入れを行う予定である。